

## 第24期第1回評議員会報告

日時 昭和62年1月12日(月) 18:00~20:00

場所 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋会館

出席者

評議員：内田，菊池，駒林，片山，増沢，岸保，松本

名誉会員：和達，畠山，吉武，高橋，磯野

日本学術会議会員：沢田

常任理事：山元，関口，竹内，河村，浅井，松野，荒川，重原，能登，土屋，村上，中村

理事：田中

事務局：加藤，片桐

内容

1. 山元理事長から学会運営について、次の項目に重点をおいて全般的な説明をした。なお、個々の業務については担当理事から説明を行った。

(1) 会員の動向について

(2) 財政状況について

(3) 気象集誌特別号の発刊について

(4) 国際学术交流の強化について

2. 各理事は自己紹介を行ったあと、担当業務についてそれぞれ説明を行った。

3. 評議員からの意見要望

(1) 最近の「天気」の内容は非常に高度になりわかりにくい。もっとわかりやすく面白いものにしてはどうか。

(2) 学術用語集(気象学編)の用語は一度きめると変更がむずかしいので慎重に対処すべきである。

(3) 長期予報に関する研究を期待している。

(4) 国際学术交流活動を更に発展させてほしい。

(5) 学会の量的な拡大を図るだけでなく、質的な充実も考えるべきである。

その他の意見要望があった。

## 学会事務局からのお知らせ

学会員の皆さんの便宜をはかるため、事務局でゼロックスのセルフサービスを4月1日よりはじめました。どうぞご利用下さい。

利用の条件は次の通りです。

1. セルフ・サービス
2. 利用者は台帳に氏名・所属・コピー枚数等を記入

する。

3. 料金の支払いは、現金で、事務局会計に直接払う。

4. 価格は実費程度。(予定：30円/1枚)

5. なお、場合によっては将来中止することもあります。

編集後記：金久氏の解説は気象系，気候系を非線形のまま取り扱おうという試みの一つを紹介したものです。読者のなかには初めて目に触れる分野と感ぜられる方もあるかも知れません。気象力学の分野は計算機による数値解析で多くの発展を見たが、いままた原方程式の解の存在性，解の性格等の研究から，新たな発展をもくろんでいることを感じ取って欲しい。

一方，気候系を実務的に取り扱うには基礎データが不可欠だが，人間が行動するスケールで用意されたデータベースは少ない。岡村氏の解説にあるメッシュ気候値は

まさにこの要請に 応えて 試みられたものです。今月号で，図らずもこれら2つの解説を同時に掲載できたことに，今後の気象学の目指す方向を示唆される想いがあり興味深い。

このいずれにも今後の課題は多い。研究の道も険しいが，業務的な問題解決も又困難なことが多い。データの提供についてだけを見ても，スムーズに行われているとは言いがたい。いくつかのデータ照会に対し，ケースバイケースで対応しているのが現状である。今後の発展，展望に期待したい。(Y)